

外国語による医療相談の現状と課題

特定非営利活動法人 AMDA国際医療情報センター

現 状

- ・情報のつまみ食い？

課題

- 1. 患者類型の境界線
- 2. 患者さんが求める情報

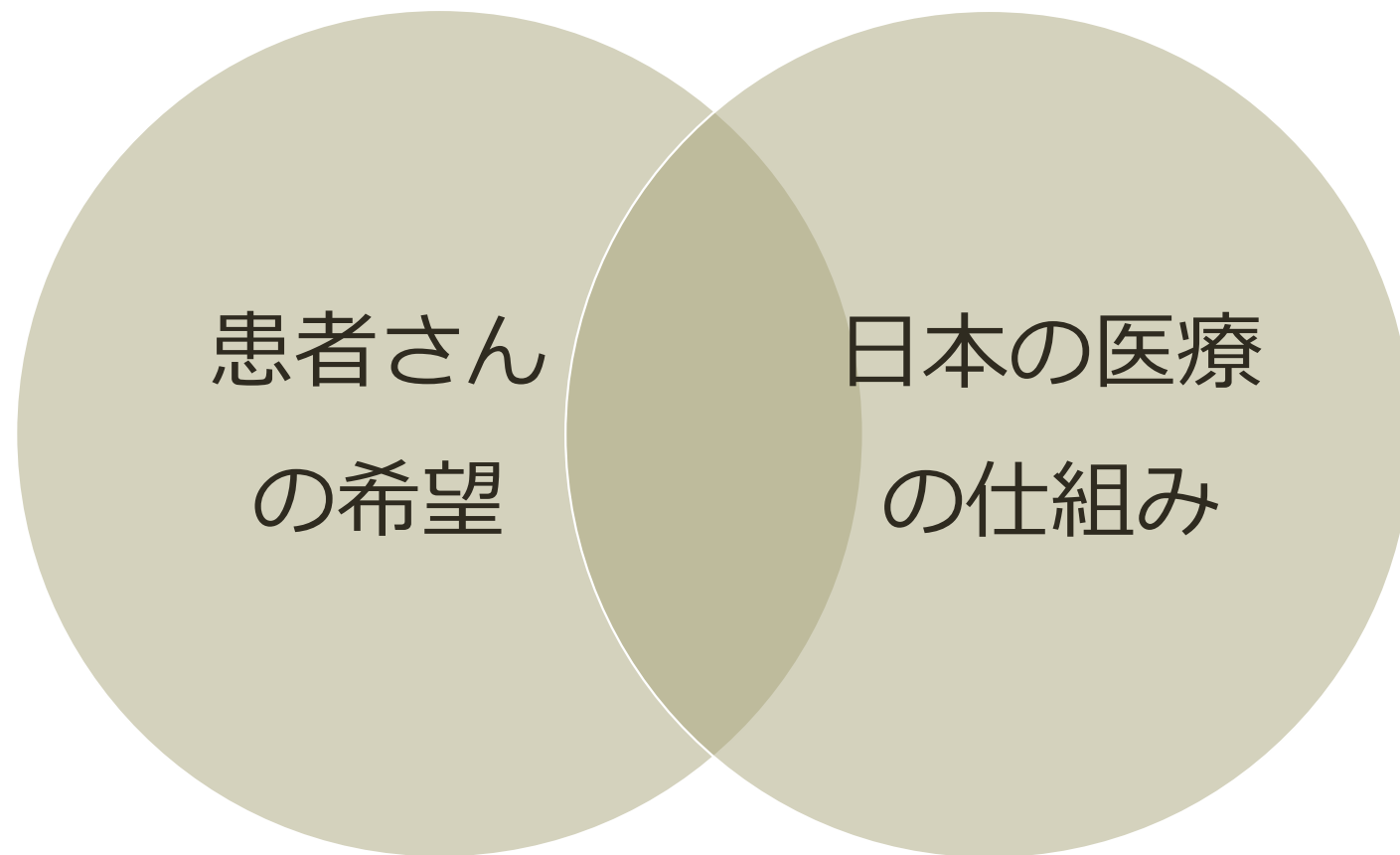
1-1.患者類型別 ひまわりの対応

- 在留外国人の受診、訪日外国人の急病・怪我
→ひまわりで通常通り医療機関情報を提供
- 渡航受診外国人
→国際医療コーディネーター、
Japan International Hospitalsのサイトを案内

1-2. 患者類型の境界線

患者類型	想定から外れるケース
在留外国人患者	母国にいる親族や知人のための代理相談
	☒x) 難病の親族の治療が日本で可能かどうか、データを持参しているので医師に相談したい
訪日外国人患者	観光や出張などのついでの受診希望
	☒x) 持病、既往症について日本の医師に相談したい
渡航受診外国人患者	親族訪問やマルチビザなど、医療滞在ビザを必要としない患者からの受診希望
	☒x) すでに日本へ来ており、いつでもまた来られる。医療機関の情報さえ教えてくれればいい

2-1. 患者さんが
求める情報



2-2.ひまわりの 医療相談例

- 大きな病院へ行きたい
→まずクリニックを受診しましょう
- 夜間しか時間がない
→救急外来は急患に対応します
- 薬だけほしい
→医師の診察が必要です
- 診てくれないのは外国人差別
→受付終了？紹介予約制？
理由を調べて一緒に考えます

etc.

2-3.スムーズに 受診するために

- 患者さんの希望を理解した上で、日本の医療の仕組みに合わせた受診を勧め、納得して医療機関を受診してもらうことが重要です

終わりに

- 親身に説明、真剣に説得！